

平成 30 年 5 月 28 日現在

機関番号：32644

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26780085

研究課題名(和文)戦後日本のジェンダー秩序とその変容に関する政治社会学的研究

研究課題名(英文)The political sociology of transformation in the gender order of post-war Japan

研究代表者

辻 由希 (TSUJI, Yuki)

東海大学・政治経済学部・准教授

研究者番号：40610481

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では2000年代以降の労働政策や女性政策の政策過程を分析し、政党間競争および政党内競争が新しいアイデアの採用に影響を与えていること、また政官関係や統治機構改革により、従来の政策過程とは異なるアクター、アイデアの参入がみられることを明らかにした。
また自民党における女性の役割と影響力についても調査した。1980年代まではほとんど参議院に活躍の場が限られていた自民党所属の女性議員であったが、90年代以降は衆議院でも少しずつ増え、政界に入る前の前職も多様化している。また女性局の活動も、近年は動員だけでなく政策提言も行うようになり、自民党の家族政策に一定の影響を与えている。

研究成果の概要(英文)： By investigating labor policies and women's advancement policies since the 2000s, I found that the intensified party competition has promoted the introduction of new policy ideas regarding women and employment. Also, recent reforms in the executive-legislative relations as well as governance structure have changed the influences of competing ideas and actors proposing them.

This study also examined roles and influences of women in the Liberal Democratic Party. The number of female MPs in the LDP has gradually increased since the 1990s even in the Lower House, and their expertise based on previous careers has widened to some extent. In addition, the women's bureau of the party started to propose policy programs on family since the mid-2000s, which seems to have some impact on party programs.

研究分野：ジェンダーと政治

キーワード：自由民主党 女性局 女性議員 安倍政権 政党間競争 女性政策 労働政策

1. 研究開始当初の背景

研究代表者はこれまでの研究において、政治アクターの提示するアイデアと言説の内容分析を行い、家族主義福祉レジームにおけるアイデアの対立軸と、そこで提示される言説がどのようなジェンダー規範を構築しているのかを分析した。しかし、そのアイデアや言説が形成される政治的領域がどのように構成されているのかという政治構造、およびアイデアが具体的な政策として決定される際の制約/促進要因として機能する政治制度の分析、そして制度に制約されつつ政治アクターがとる戦略的行動とその成否を決める要因についての分析を体系的に行うことはできていなかった。

日本政府は現在、男性稼ぎ主型を前提とした家族主義福祉レジームの改革の必要性に迫られているが、政治および社会におけるアイデアや言説の変化がそのまま政策変化につながるわけではない。とりわけ、これまでに形成されてきた政治システムに、ジェンダーの規範が埋め込まれている場合、政策の変化は政治システムの変化と不可分である。

そこで、政策の形成と実施を通じて社会におけるジェンダー関係・規範の構築に寄与する政治システムがどのように構成され、またどう変わりつつあるのかという「ジェンダー秩序」の政治社会学的分析が必要であるとの着想に至った。

したがって本研究では、戦後日本の政治経済構造に顕著なジェンダー秩序がどのように形成されたのかを保守政党の役割に注目しながら明らかにすること、また1990年代以降のさまざまな政治・行政制度の改革および政治経済社会構造の変容を背景にして、ジェンダー秩序にどのような変容が起こっているのかを政党政治や政策過程の変容を追跡することで明らかにすることが必要と考えられた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、戦後日本政治のなかに埋め込まれてきたジェンダー秩序の特徴とその変容について、「ジェンダーと政治」の政治社会学および比較政治学の枠組に基づきながら、保守政党、行政府、地域政治におけるジェンダー秩序形成機能に注目して明らかにすることであった。

具体的には、自民党内組織における女性の位置付けおよび党内の政策形成過程における影響力行使、ジェンダー関連政策を管轄する行政機関の制度的権限、アイデアの形成と政策への入力過程、地域コミュニティにおける政党、行政、市民集団間の関係とジェンダー秩序、という三点について55年体制後期(1970年代~93年)の特徴を明らかにするとともに、それがポスト55年体制期(1994年以降)にどのように変容しているかを分析することを目的とした。

3. 研究の方法

資料文献調査およびインタビュー調査を通じ、上記研究目的のからを明らかにするとともに、国際比較のために海外諸国のジェンダー政治に関する文献を収集、検討した。

4. 研究成果

主な研究成果としては、政党間競争がジェンダー関連政策の形成に与える影響に関する成果、自民党における女性の位置付けに関する成果、地方政治レベルにおけるジェンダー秩序の変化に関する成果に分けることができる。

(1)2000年代以降の労働政策や女性政策(とりわけ女性活躍推進政策)などの政策過程において、政党間競争の強化、およびそれと連動した政党内競争が影響を与えていること、また政官関係や統治機構改革が、政策過程に入力されるアイデアの変化につながっていることを指摘した。これらの研究成果については、国内外の学会で報告した上で、学術論文として出版した。

(2)自民党における女性の組織化、活動、政策影響力についての調査を行い、党組織における女性部/女性局の活動内容とその変化について追跡した。これにより、女性活動家の組織化にあたり女性向け党機関紙が一定の役割を果たしてきたこと、近年、党内女性局が政策提案を行うようになってきたこと等が明らかになった。また自民党所属の女性議員については前歴(キャリア・パス)の一覧表を作成し、55年体制の前と後で自民党女性議員の経歴に変化がみられることを指摘した。これらの研究成果の一部については国内外の学会において報告した。またその成果の一部は、分担執筆の学術書として平成30年度中に出版される予定である。

(3)地方政治レベルにおけるジェンダー秩序の変化として、以前からの研究に引き続き、女性首長の経歴調査と事例分析を実施した。これを通じて、家族主義レジームに埋め込まれてきた性別役割分業が、日本における女性政治家候補の輩出ルートを特徴付けてきたこと、また地方政府においてケアがアジェンダ化したということと地方分権化という環境要因の変化が、近年の女性首長の登場を後押ししていることを明らかにした。この成果は英語論文として出版された。

(4)今後の展望

本研究では、政策過程、政党組織、および政治代表に関してジェンダーの観点から個別事例の分析を行ってきた。これらの成果を受けて、現在、保守政党が長く政権を担ってきた日本におけるジェンダー秩序の形成とその変化のメカニズムについて、一貫した分

析枠組で記述・分析を行い、成果を論文にまとめる作業を行っている。男性稼ぎ主型、保守政党の中心性という点で類似した特徴をもつ他の先進諸国（ドイツ等）との比較についてもさらに進めていく必要がある。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 7 件)

辻 由希 (2017) 「女性の「利用」と「男性性の回復」 安倍内閣と民進党のジェンダー感度」、『世界』900号、74-81頁、査読なし。

Tsuji, Yuki. 2017. “Explaining the Increase in Female Mayors: Gender-Segregated Employment and Pathways to Local Political Leadership.” *Social Science Japan Journal*, 20(1), pp.37-57, 査読あり。

辻 由希 (2016) 「台湾における女性議員の持続的増加の要因 2016年台北市でのヒアリング調査から」、『東海大学紀要 政治経済学部』48巻、87-102頁、査読なし。

辻 由希 (2015) 「ジェンダー平等の実質化と日本政治」、『法社会学』82巻、156-178頁、査読なし。

辻 由希 (2015) 「ジェンダー・モデルの転換と政党政治」、『生活経済政策』225巻、13-17頁、査読なし。

辻 由希 (2015) 「安倍政権と女性政策」、『法学論叢』176巻5/6号、348-379頁、査読なし。

辻 由希 (2014) 「派遣労働再規制の政治過程 『一般労働者の代表』をめぐる政党間競争」、『レヴアイアサン』55号、59-86頁、査読なし。

〔学会発表〕(計 7 件)

Tsuji, Yuki. 2017. “A Challenge to Patriarchal Political Arena, or What? Analysis of Koike Yuriko's Uprising in the 2017 National Election.” Colloquium on Equal Participation and Diversity, Berlin.

Tsuji, Yuki. 2017. “Abenomics and Men: Politics of Masculinity after the Crises in Japan.” European Conference on Politics and Gender, Lausanne.

辻 由希 (2016) 「保守政党における女性の政治活動と日常性」日本政治学会 2016年度研究大会、立命館大学。

Tsuji, Yuki. 2016. “Women inside the Conservative Party in Japan.” AAS-in-Asia, Kyoto.

Tsuji, Yuki. 2015. “Why has the Abe Administration Promoted Policies for the Advancement of Women? The Gender Turn of the Party Politics in Contemporary Japan.” ECPR General Conference, Montreal.

辻 由希 (2014) 「制度改革とジェンダー政治 - ナショナル・マシーナリーを手がかりに」日本政治学会 2014年度研究大会、早稲田大学。

辻 由希 (2014) 「労働市場におけるジェンダー秩序再編の政治」日本比較政治学会 2014年度研究大会、東京大学。

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

辻 由希 (TSUJI, Yuki)
東海大学政治経済学部政治学科・准教授
研究者番号：40610481

(2) 研究分担者

なし

(3)連携研究者
なし

(4)研究協力者
なし